

※解答の導出過程がないレポートは認めない.

採点済みレポートは次回演習時に返却.

材料の力学1 Step3 第10回演習問題 (2016/7/4 実施)

- [1] 一方の端（点O）で壁に固定された長さ $2L$ のはりに分布荷重 p が、点A ($x=L$) に集中荷重 P が負荷されている。はりの縦弾性係数を E 、断面2次モーメントを I として以下の問い合わせに答えよ。

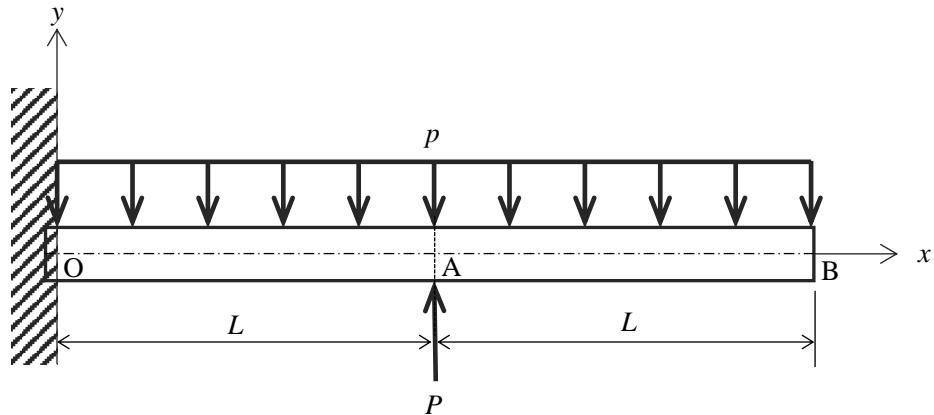


Fig. 1 分布荷重を受けるはり.

- (1) はりのFBDを描き、点Oに作用する反力を R_O 、反モーメントを M_O を求めよ。
- (2) はりに生じるせん断力 $Q(x)$ 、曲げモーメント $M(x)$ をそれぞれ求めよ。
- (3) はりのたわみ角 $v'(x)$ 、およびはりのたわみ $v(x)$ をそれぞれ求めよ。
- (4) はりの先端（点B）のたわみ角 v'_B 、たわみ v_B をそれぞれ求めよ。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.

採点済みレポートは次回演習時に返却.

[1]

(1) はりの FBD を描き、点 O に作用する反力を R_O 、反モーメントを M_O を求めよ。

はりの FBD は、

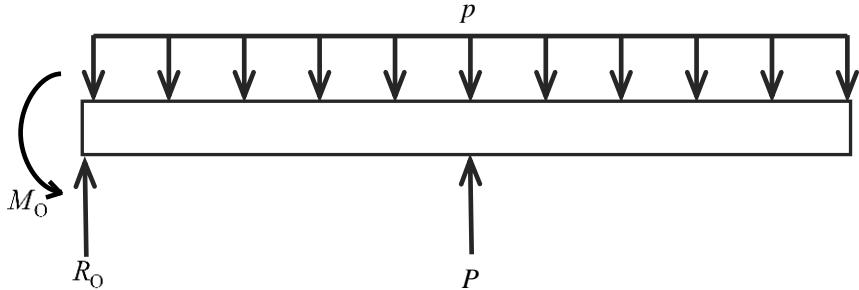


Fig. 1.1 FBD.

と表される。よって、はりに関する力のつり合いの式、および点 O まわりの力のモーメントのつり合い式は、

$$R_O + P - 2pL = 0$$

$$R_O = 2pL - P \quad (1.1)$$

$$-M_O + \int_0^{2L} p x d x - PL = 0$$

$$M_O = 2p\bar{L} - PL \quad (1.2)$$

で表される。

(2) はりに生じるせん断力 $Q(x)$ 、曲げモーメント $M(x)$ をそれぞれ求めよ。

(i) $0 \leq x < L$ のとき

x 方向に変化するはりについての FBD は、

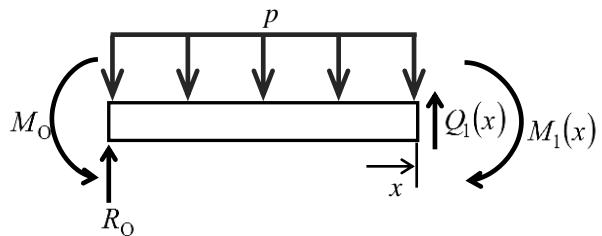


Fig. 1.2 FBD.

と表される。

※解答の導出過程がないレポートは認めない。

採点済みレポートは次回演習時に返却。

x までのはりに関する力のつり合いの式、および力のモーメントのつり合い式は、

$$\begin{aligned} R_O + Q_1(x) - px &= 0 \\ Q_1(x) &= px - R_0 \\ &= px + P - 2pL \end{aligned} \quad (1.3)$$

$$\begin{aligned} -M_O + R_O x - \int_0^x p x dx + M_1(x) &= 0 \\ M_1(x) &= M_O - R_O x + \frac{1}{2} p x^2 \\ &= \frac{1}{2} p x^2 + (P - 2pL)x + (2pL^2 - PL) \end{aligned} \quad (1.4)$$

で表される。

(ii) $L < x \leq 2L$ のとき

x 方向に変化するはりについての FBD は、

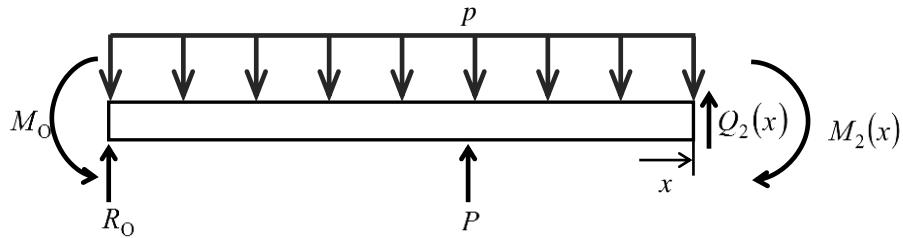


Fig. 1.3 FBD.

と表される。

x までのはりに関する力のつり合いの式、および力のモーメントのつり合い式は、

$$\begin{aligned} R_O + P + Q_2(x) - px &= 0 \\ Q_2(x) &= px - R_O - P \\ &= px - 2pL \end{aligned} \quad (1.5)$$

$$\begin{aligned} -M_O + R_O x + P(x - L) - \int_0^x p x dx + M_2(x) &= 0 \\ M_2(x) &= 2pL^2 - PL - x(2pL - P) - P(x - L) + \frac{1}{2} p x^2 \\ &= \frac{1}{2} p x^2 - 2pLx + 2pL^2 \end{aligned} \quad (1.6)$$

で表される。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.
採点済みレポートは次回演習時に返却.

よって、はりに生じるせん断力 $Q(x)$ 、曲げモーメント $M(x)$ は、

$$Q(x) = \begin{cases} P + p(x - 2L) & (0 \leq x < L) \\ p(x - 2L) & (L < x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.7)$$

$$M(x) = \begin{cases} \frac{1}{2}px^2 + (P - 2pL)x + (2pL^2 - PL) & (0 \leq x < L) \\ \frac{1}{2}px^2 - 2pLx + 2pL^2 & (L < x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.8)$$

と表される。

(3) はりのたわみ角 $v'(x)$ 、およびはりのたわみ $v(x)$ をそれぞれ求めよ。

はりのたわみに関する基礎式は、

$$-EIv''(x) = M(x) \quad (1.9)$$

と表される。

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

式(1.9)に式(1.8)を代入すると、

$$-EIv_1''(x) = \frac{1}{2}px^2 + (P - 2pL)x + (2pL^2 - PL) \quad (1.10)$$

$$v_1'(x) = -\frac{1}{E} \left\{ \frac{1}{6}px^3 + \left(\frac{1}{2}P - pL \right)x^2 + (2pL^2 - PL)x + C_1 \right\} \quad (1.11)$$

$$v_1(x) = -\frac{1}{E} \left\{ \frac{1}{24}px^4 + \left(\frac{1}{6}P - \frac{1}{3}pL \right)x^3 + \left(pL^2 - \frac{1}{2}PL \right)x^2 + C_1x + C_2 \right\} \quad (1.12)$$

(C_1, C_2 :積分定数)

境界条件より $v_1(0) = v_1'(0) = 0$ となるため、 $C_1 = C_2 = 0$ となる。よって、

$$v_1'(x) = -\frac{1}{E} \left\{ \frac{1}{6}px^3 + \left(\frac{1}{2}P - pL \right)x^2 + (2pL^2 - PL)x \right\} \quad (1.13)$$

$$v_1(x) = -\frac{1}{E} \left\{ \frac{1}{24}px^4 + \left(\frac{1}{6}P - \frac{1}{3}pL \right)x^3 + \left(pL^2 - \frac{1}{2}PL \right)x^2 \right\} \quad (1.14)$$

と表される。

※解答の導出過程がないレポートは認めない。
採点済みレポートは次回演習時に返却。

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

式(1.9)に式(1.8)を代入すると,

$$-EIv''_2(x) = \frac{1}{2}px^2 - 2pLx + 2pL^2 \quad (1.15)$$

$$v'_2(x) = -\frac{1}{E}\left(\frac{1}{6}px^3 - pLx^2 + 2pL^2x + C_3\right) \quad (1.16)$$

$$v_2(x) = -\frac{1}{E}\left(\frac{1}{24}px^4 - \frac{1}{3}pLx^3 + pL^2x^2 + C_3x + C_4\right) \quad (1.17)$$

(C_3, C_4 :積分定数)

$x = L$ のときのたわみ角 $v'_1(L) = v'_2(L)$ とたわみ $v_1(L) = v_2(L)$ の条件により C_3, C_4 を決定する.

$$v'_1(L) = v'_2(L) \quad (1.18)$$

$$-\frac{1}{E}\left(-\frac{1}{2}PL^2 + \frac{7}{6}pL^3\right) = -\frac{1}{E}\left(C_3 + \frac{7}{6}pL^3\right) \quad (1.19)$$

$$C_3 = -\frac{1}{2}PL^2 \quad (1.20)$$

$$v_1(L) = v_2(L) \quad (1.21)$$

$$-\frac{1}{E}\left(-\frac{1}{3}PL^3 + \frac{17}{24}pL^4\right) = -\frac{1}{E}\left(C_4 - \frac{1}{2}pL^3 + \frac{17}{24}pL^4\right) \quad (1.22)$$

$$C_4 = \frac{1}{6}PL^3 \quad (1.23)$$

よって、たわみ角 $v'(x)$ とたわみ $v(x)$ は、

$$v'(x) = \begin{cases} -\frac{1}{EI}\left\{\frac{1}{6}px^3 + \left(\frac{1}{2}P - pL\right)x^2 + (2pL^2 - PL)x\right\} & (0 \leq x \leq L) \\ -\frac{1}{EI}\left(\frac{1}{6}px^3 - pLx^2 + 2pL^2x - \frac{1}{2}PL^2\right) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.24)$$

$$v(x) = \begin{cases} -\frac{1}{EI}\left\{\frac{1}{24}px^4 + \left(\frac{1}{6}P - \frac{1}{3}pL\right)x^3 + \left(pL^2 - \frac{1}{2}PL\right)x^2\right\} & (0 \leq x \leq L) \\ -\frac{1}{EI}\left(\frac{1}{24}px^4 - \frac{1}{3}pLx^3 + pL^2x^2 - \frac{1}{2}PL^2x + \frac{1}{6}PL^3\right) & (L \leq x \leq 2L) \end{cases} \quad (1.25)$$

と表される。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(4) はりの先端（点 B）のたわみ角 v'_B , たわみ v_B をそれぞれ求めよ。

式(1.24), 式(1.25)に $x=2L$ を代入すると,

$$v'_B = v'(2L) = -\frac{1}{EI} \left(\frac{4}{3} p L^3 - \frac{1}{2} P L^2 \right) \quad (1.26)$$

$$v_B = v(2L) = -\frac{1}{EI} \left(2p L^4 - \frac{5}{6} P L^3 \right) \quad (1.27)$$

と表される。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.

採点済みレポートは次回演習時に返却.

- [2] 図 2 に示すような段付き中実はりについて考える. B 点, D 点で単純支持されており, A 点, E 点には集中荷重 P が作用している. はりの側面図は図 3 のようになっており, AB 間, DE 間では半径 r , BD 間では半径 $\sqrt{2}r$ である. また, はりの縦弾性係数を E とする. このとき以下の問い合わせに答えよ.

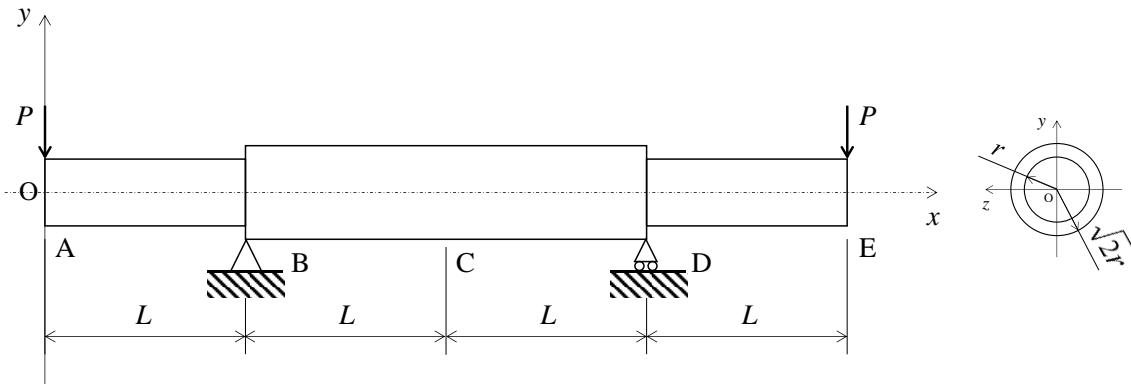


Fig. 2

Fig. 3

- (1) AB 間の断面 2 次モーメント I_{z1} , BC 間の断面 2 次モーメント I_{z2} をそれぞれ求めよ.
- (2) FBD を描き, B 点, D 点における支点反力 R_B , R_D をそれぞれ求めよ.
- (3) はり全体の SFD, BMD を描け.
- (4) A 点におけるたわみ v_A , C 点におけるたわみ v_C をそれぞれ求めよ.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.
採点済みレポートは次回演習時に返却.

[2]

(1) AB 間の断面 2 次モーメント I_{z1} , BC 間の断面 2 次モーメント I_{z2} をそれぞれ求めよ.

図 2.1 に示す円形断面を持つはりの z 軸に関する断面 2 次モーメントを求める.

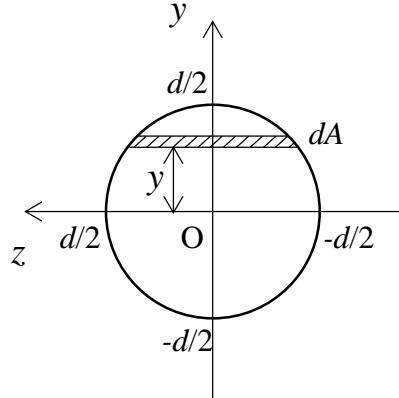


Fig. 2.1 円形断面の断面 2 次モーメントの計算.

上図における微小面積 dA は

$$dA = 2\sqrt{\frac{d^2}{4} - y^2} dy \quad (2.1)$$

よって、断面二次モーメント I_z は

$$I_z = \int_A y^2 dA = \int_{-d/2}^{d/2} 2y^2 \sqrt{\frac{d^2}{4} - y^2} dy \quad (2.2)$$

ここで、

$$y = \frac{d}{2} \sin \theta \quad (2.3)$$

とおけば

$$\begin{aligned} I_z &= \int_{-\pi/2}^{\pi/2} \left(2 \cdot \frac{d^2}{4} \sin^2 \theta \sqrt{\frac{d^2}{4} - \frac{d^2}{4} \sin^2 \theta} \frac{d}{2} \cos \theta \right) d\theta \\ &= \frac{d^4}{64} \int_{-\pi/2}^{\pi/2} (1 - \cos 4\theta) d\theta = \frac{\pi d^4}{64} \end{aligned} \quad (2.4)$$

となる。上式に $d=2r$, $d=2\sqrt{2}r$ をそれぞれ代入することで、AB 間の断面 2 次モーメント I_{z1} , BC 間の断面 2 次モーメント I_{z2} は

$$I_{z1} = \frac{\pi(2r)^4}{64} = \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.5)$$

$$I_{z2} = \frac{\pi(2\sqrt{2}r)^4}{64} = \pi r^4 \quad (2.6)$$

と求まる。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(2) FBD を描き、 B 点, D 点における支点反力 R_B , R_D をそれぞれ求めよ.

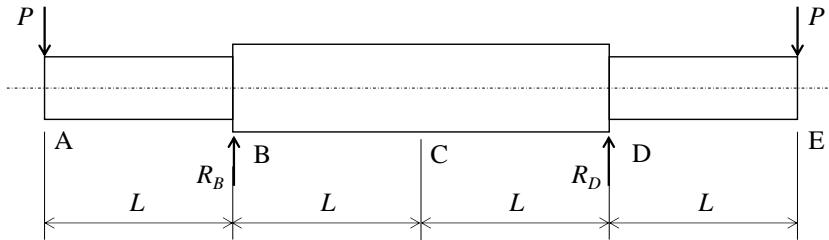


Fig. 2.2 FBD.

力のつり合いより

$$\begin{aligned} -P + R_B + R_D - P &= 0 \\ \therefore R_B + R_D &= 2P \end{aligned} \quad (2.7)$$

対称性より、 支点反力 R_B , R_D はそれぞれ

$$R_B = R_D = P \quad (2.8)$$

となる.

(3) はり全体の SFD, BMD を描け.

(i) $0 \leq x < L$ のとき

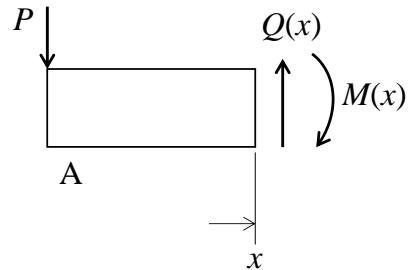


Fig. 2.3 FBD.

せん断力 $Q(x)$ は力のつり合いより

$$\begin{aligned} -P + Q(x) &= 0 \\ \therefore Q(x) &= P \end{aligned} \quad (2.9)$$

曲げモーメント $M(x)$ はモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} -Px + M(x) &= 0 \\ \therefore M(x) &= Px \end{aligned} \quad (2.10)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない.
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(ii) $L < x \leq 2L$ のとき

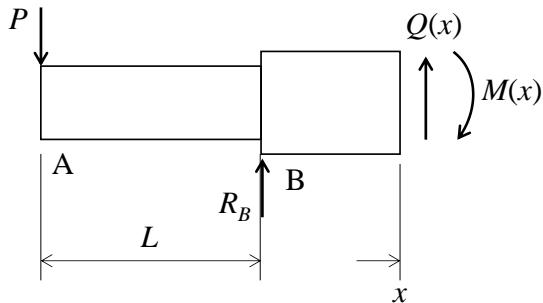


Fig. 2.4 FBD.

せん断力 $Q(x)$ は力のつり合いより

$$\begin{aligned} -P + R_B + Q(x) &= 0 \\ \therefore Q(x) &= P - R_B = 0 \end{aligned} \quad (2.11)$$

曲げモーメント $M(x)$ はモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} -Px + R_B(x - L) + M(x) &= 0 \\ \therefore M(x) &= Px - R_B(x - L) = PL \end{aligned} \quad (2.12)$$

対称性を考慮して SFD, BMD は以下のように表せる。対称性を考慮する際、 $Q(x)$, $M(x)$ の正負に注意する。

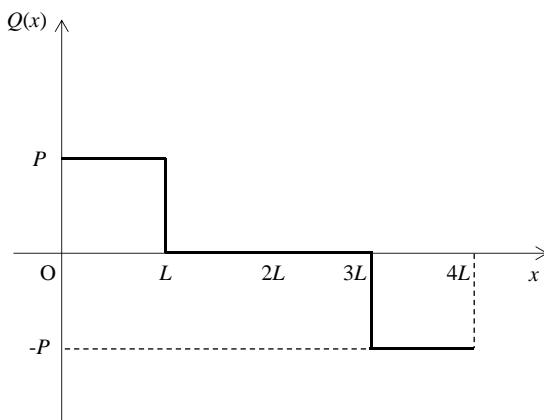


Fig. 2.5 SFD.

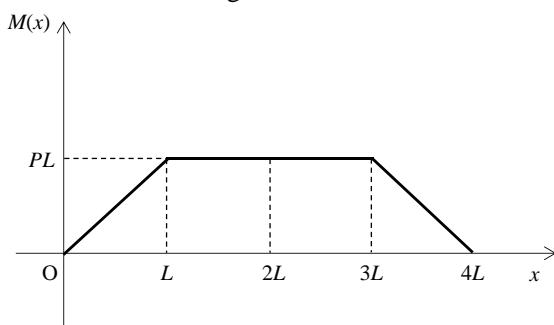


Fig. 2.6 BMD.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.
採点済みレポートは次回演習時に返却.

(4) A 点におけるたわみ v_A , C 点におけるたわみ v_C をそれぞれ求めよ.

AB 間のたわみを $v_1(x)$, BC 間のたわみを $v_2(x)$ とする.

たわみに関する基礎式は

$$-EI v''(x) = M(x) \quad (2.13)$$

と表される. 区間ごとに積分を行い, たわみ $v(x)$ を求める.

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

式(2.10)を式(2.13)に代入して, 以下の式が得られる.

$$-EI_{z1}v_1''(x) = Px \quad (2.14)$$

上式の両辺を積分することで

$$-EI_{z1}v_1'(x) = \frac{1}{2}Px^2 + C_1 \quad (C_1: \text{積分定数}) \quad (2.15)$$

$$-EI_{z1}v_1(x) = \frac{1}{6}Px^3 + C_1x + C_2 \quad (C_2: \text{積分定数}) \quad (2.16)$$

たわみ角 v'_1 とたわみ v_1 は, AB 間における断面 2 次モーメントが $I_{z1}=\pi r^4/4$ であるので,

$$v_1'(x) = -\frac{4}{E\pi r^4} \left(\frac{1}{2}Px^2 + C_1 \right) \quad (2.17)$$

$$v_1(x) = -\frac{4}{E\pi r^4} \left(\frac{1}{6}Px^3 + C_1x + C_2 \right) \quad (2.18)$$

となる.

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

式(2.12)を式(2.13)に代入して, 以下の式が得られる.

$$-EI_{z2}v_2''(x) = PL \quad (2.19)$$

上式の両辺を積分することで

$$-EI_{z2}v_2'(x) = PLx + C_3 \quad (C_3: \text{積分定数}) \quad (2.20)$$

$$-EI_{z2}v_2(x) = \frac{1}{2}PLx^2 + C_3x + C_4 \quad (C_4: \text{積分定数}) \quad (2.21)$$

たわみ角 v'_2 とたわみ v_2 は, BC 間における断面 2 次モーメントが $I_{z2}=\pi r^4$ であるので,

$$v_2'(x) = -\frac{1}{EI_{z2}}(PLx + C_3) \quad (2.22)$$

$$v_2(x) = -\frac{1}{E\pi r^4} \left(\frac{1}{2}PLx^2 + C_3x + C_4 \right) \quad (2.23)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない。
採点済みレポートは次回演習時に返却。

ここで、C点において対称性より $v_2'(2L)=0$ なので

$$\begin{aligned} v_2'(2L) &= -\frac{1}{E\pi r^4}(2PL^2 + C_3) = 0 \\ \therefore C_3 &= -2PL^2 \end{aligned} \quad (2.24)$$

となる。また、接続条件より $v_1'(L)=v_2'(L)$ なので

$$\begin{aligned} -\frac{4}{E\pi r^4}\left(\frac{1}{2}PL^2 + C_1\right) &= -\frac{1}{E\pi r^4}(PL^2 + C_3) \\ \therefore C_1 &= \frac{C_3 - PL^2}{4} = -\frac{3}{4}PL^2 \end{aligned} \quad (2.25)$$

となる。境界条件より $v_1(L)=v_2(L)=0$ なので

$$\begin{aligned} v_1(L) &= -\frac{4}{E\pi r^4}\left(\frac{1}{6}PL^3 + C_1L + C_2\right) = 0 \\ \therefore C_2 &= \frac{7}{12}PL^3 \end{aligned} \quad (2.26)$$

$$\begin{aligned} v_2(L) &= -\frac{1}{E\pi r^4}\left(\frac{1}{2}PL^3 + C_3L + C_4\right) = 0 \\ \therefore C_4 &= \frac{3}{2}PL^3 \end{aligned} \quad (2.27)$$

となり、積分定数 $C_1 \sim C_4$ が求まった。

以上より、AB間に生じるたわみ v_1 と BC間に生じるたわみ v_2 は

$$v_1(x) = -\frac{4}{E\pi r^4}\left(\frac{1}{6}Px^3 - \frac{3}{4}PL^2x + \frac{7}{12}PL^3\right) \quad (2.28)$$

$$v_2(x) = -\frac{1}{E\pi r^4}\left(\frac{1}{2}PLx^2 - 2PL^2x + \frac{3}{2}PL^3\right) \quad (2.29)$$

となる。

A点におけるたわみ v_A は、式(2.28)に $x=0$ を代入して

$$v_A = -\frac{7PL^3}{3E\pi r^4} \quad (2.30)$$

C点におけるたわみ v_C は、式(2.29)に $x=2L$ を代入して

$$v_C = -\frac{1}{E\pi r^4}(2PL^3 - 4PL^3 + \frac{3}{2}PL^3) = \frac{PL^3}{2E\pi r^4} \quad (2.31)$$

となる。